

## 韓国

### マクロ経済動向

統計指標からは、9月の韓国経済には若干の回復傾向が見受けられた。製造業生産指数は7月、8月にはそれぞれ前年同月比 6.2%、5.2%と低下を続けたが、速報によれば9月はプラスに転じた模様である。貿易収支の黒字幅も8月の7.2億ドルから9月には16億ドル(速報値)まで回復した。失業率も低下を続け、9月には3.3%と97年11月以来の低い水準になった。

しかし9月11日に起こった米国の同時多発テロは、こうしたわずかな回復の兆しを、吹き飛ばしてしまったといえよう。米国向けを中心に輸出は減少しており、速報によれば通関ベースで10月は前年同月比 19.3%となった。テロ及び戦争の影響が長期化すれば、米国の消費減退による輸入の減少は、世界的な景気低迷を招来し、外需に大きく依存する韓国経済の回復はより困難なものとなろう。

政府系研究機関である韓国開発研究院(KDI)が10月25日に発表した経済予測によれば、下半期の輸出の減少などにより、今年の経済成長率は2.2%に止まるとし、7月時点の予測値4.0%から大幅に下方修正した。これはまた、政府見通しの4~5%を大きく下回るものとなっている。

### 半導体産業の行方

半導体は家電、船舶、自動車などと並ぶ韓国の主要輸出品である。その輸出、生産の動向は韓国経済に大きな影響を与えている。この業界の特徴として、“シリコンサイクル”と呼ばれる生産の波動が知られている。これは世界の景気動向や、新型OS(基盤ソフト)の登場といった要因によって引き起こされるもので、そのピーク時には過剰投資が行われ、供給能力の過剰から製品の値崩れがおこるといったパターンが繰り返されている。したがって、サイクルの上昇期には韓国経済にとって追い風となり、下降期はマイナス要因となる。

現状はすでに昨年の後半から後退局面に入っており、今

年米国のITブームの終焉がこれを決定付ける形となっていた。10月に発売されたマイクロソフト社の新型OS、ウィンドウズXPは、本来こうした中でプラス要因として期待された新商品であった。しかしテロ事件の悪影響はこれを凌ぐと見られ、米国市場ではクリスマス商戦にも期待できない状況となっている。

一方、日本ではNECなど半導体の主要メーカー4社が、日本市場における韓国製半導体の価格がダンピング(不当廉売)にあたるとして、アンチダンピング課税を政府に申請する動きを示している。半導体価格の下落が、韓国メーカーの責任と認定できるかどうかは微妙であるが、日韓メーカー間の激しい競争が市況の悪化の中で表面化したものといえる。

こうした厳しい状況で、DRAM(記憶保持動作が必要な随時書き込み読み出しメモリ)市場では世界最大手の三星電子は、大規模な設備投資を行い、世界で初めて、300ミリ半導体ウエハーを使った製品や、512メガビットDRAMの量産を開始した。これによって日本勢など競合手を突き放し、世界のDRAM市場のイニシヤチブを握ろうとする戦略である。しかし一方でこうした能力増強は、製品価格の低下も加速するため、7~9月期に赤字となった同社の半導体事業の業績が、急速に回復するかどうかは予測できない。

他方、DRAM市場で世界第三位の規模を持つハイニックス半導体(旧現代電子)は11兆ウォンの負債を抱え、その再生は引き続き不透明な状況である。11月からは1万4千人の従業員が交代で休職(無給)する事実上のレイオフが予定されている。また現在、一部の生産ラインなどの設備及び技術を中国企業に売却する交渉も進められている。10月31日に同社の債権銀行団は6,500億ウォンの追加融資を決定したが、国民銀行など数行はこれに反対し、新規融資に参加しなかった。これらの銀行はハイニックス向けの債権の大部分を放棄し、一部を株式に転換することを受け入れた。

(ERINA調査研究部研究主任 中島朋義)

	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	00年10-12月	01年1-3月	4-6月	7-9月	2001年7月	8月	9月
国内総生産(%)	6.8	5.0	6.7	10.8	8.8	0.4	0.3	0.5	-	-	-	-
最終消費支出(%)	7.2	3.2	9.8	9.4	6.2	0.4	1.4	3.0	-	-	-	-
固定資本形成(%)	7.3	2.2	21.2	3.7	11.0	4.9	2.6	1.4	-	-	-	-
製造業生産指数(%)	8.3	4.5	6.6	25.0	17.1	7.4	4.9	1.5	-	6.2	5.2	-
失業率(%)	2.0	2.6	6.8	6.3	4.1	4.0	4.2	3.7	3.5	3.7	3.6	3.3
貿易収支(百万USD)	14,965	3,179	41,627	28,371	16,601	4,163	3,460	5,100	-	855	723	-
輸出(百万USD)	129,715	136,164	132,313	143,686	172,268	45,214	40,096	38,404	35,855	11,420	11,812	12,623
輸入(百万USD)	150,339	144,616	93,282	119,752	160,481	41,440	38,062	34,482	34,183	11,090	11,356	11,737
為替レート(ウォン/USD)	805	951	1,399	1,190	1,131	1,164	1,271	1,306	1,294	1,303	1,285	1,294
生産者物価指数(%)	3.2	3.9	12.2	2.1	2.0	1.6	2.5	3.2	2.0	2.7	2.0	1.2
消費者物価指数(%)	4.9	4.5	7.5	0.8	2.3	2.9	4.2	5.3	4.3	5.0	4.7	3.2
株価指数(1980.1.4=100)	833	655	406	807	734	540	574	578	542	554	568	504

(注) 失業率は水準、製造業生産指数、生産者物価指数、消費者物価指数は対前年同期比伸び率、その他のパーセンテージ表示系列は前期比伸び率  
国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、失業率は季節調整値  
貿易収支はIMF方式、輸出入は通関ベース  
(出所) 韓国銀行、国家統計庁他